

学校教育ビジョン
学校教育目標
「これからの時代を生き抜く、たくましい東谷口っ子の育成」
～みんなが笑顔の学校を みんなが笑顔の未来を みんながつくる～

学校経営理念
・子どもにとって、安心して学べ、大切にされていると実感できる学校
・教職員にとって、安心して仕事ができ、働きがいのある学校
・保護者にとって、安心して子どもを任せられる信頼できる学校
・地域にとって、安心して東谷口の未来を担う子どもたちを託せる学校

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果 (中間)	判定結果 (最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	条件や内容に気をつけながら記述する	条件や内容を意識して文章が書けるよう、国語科を中心とする授業やパワーアップタイムで継続的に取り組む。	学力向上 (研・学)	授業や学力テストなどから、字数や資料の活用など、条件に合わせて記述することが苦手な児童が見られる。	【成果指標】 条件や内容に気をつけながら記述できた児童の割合が何%か。	児童の肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童アンケート (7・12月)			
	主体的に学びに向かい、自分の考えを表現できる子の育成	自己調整を促す働きかけの工夫と、少人数のよさを生かした授業づくりの工夫をし、共通実践に取り組む。	研究 (研・学)	主体的に学ぼうとする児童の姿は少しずつ増えてきた。ねらいを明確にし、多様な考えに触れながら自分の学びや変容を実感できるような活動場面を工夫していく。	【成果指標】 児童が、授業では、「授業を進めるのは、先生ではなくて、自分だ」と思いながら学んでいるか。	児童の肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	ScTN 2 (7月、12月)			
②生徒指導 ※いじめの未然防止	日常的な発達支持的生徒指導の実施	学校の教育目標を軸に、児童の発達を支える働きかけを行う。また、生徒指導の4つの視点を意識した授業づくりや取組を共通実践する。	生徒指導 (生徒指導)	自分と異なる考えや気持ちを持つ相手に対して、受け入れられる児童もいるが、自分の考えを譲れず、受け止める姿勢が十分に育っていない児童もいる。	【成果指標】 相手が自分とは違う考えや気持ちでも、最初から否定しないで受け止めているか。	児童の肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	ScTN 32 (7月、12月)			
③キャリア教育・進路指導	学校生活は、自分たちの手で楽しくしていける	日常的な当番活動、行事の役割などで、児童が協力してよりよい学校を作れたと実感できるようにする。キャリアパスポートも活用する。	キャリア (研・学)	するべきことに真面目に取り組む児童が多いが、自信を持てなかったり受け身であったりするところがある。	【成果指標】 児童が、自分たちが協力して、全員が通うことが楽しくなる学校をつくれると思っているか。	児童の肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	ScTN 29 (7月、12月)			
④保健管理	基本的生活習慣の確立	委員会活動や元気アップ週間を通して啓発し、正しい生活習慣(早寝早起き・朝ごはん)を身につけることができるよう意識の向上を図る。	養教 (生徒指導)	日常的に朝食をしっかりとらない児童、就寝時刻が遅く生活リズムが不規則な児童がいるため、正しい生活習慣を身につけることができるようはたらきかける必要がある。	【成果指標】 元気アップカードの早寝・早起き・朝ごはんの目標を守ることができたか。	児童の肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	元気アップカード (7・12月)			
	1校1プランの推進による運動の習慣化と体力向上	体育授業にコーディネーショントレーニングやスポチャレを取り入れ、握力と上体おこしの力を伸ばす。授業のスタートは児童から！握力トレーニングで準備をし活動を楽しみながら力をつけられるような場の設定をしていく。	体育 (生徒指導)	昨年は立ち幅とびに取り組み記録を伸ばし、児童に啓発することで記録が伸びることがわかった。しかし、継続して取り組むために、教師の働きかけや楽しめる場の設定が必要であることもわかった。何事にも自ら取り組む積極性を身につける必要性がある。	【成果指数】 握力の記録を測り5月の記録を更新できたか。	記録を向上した児童の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	記録計測 (5月、7月、12月)			
⑤安全管理	避難訓練の計画的な実施と児童職員の意識向上	火災・地震・不審者に対する避難訓練を通して児童の危機予測・危機回避能力の育成とともに職員の危機未然防止・対応能力の向上を図る。	教頭 (総)	避難訓練等を計画的に実施し、児童の危機への対応能力を高めている。自分で考えて安全に行動する力をさらに伸ばしていく必要がある。	【成果指標】 児童・教員が訓練に際し、安全を意識して行動できたか。	児童・教員の肯定的評価が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	児童・教員アンケート (訓練ごと)			
⑥特別支援教育	「自分らしさ」を自他ともに認める雰囲気づくり	すべての子どもが安心して参加できる授業づくりや学校生活での安心感を育てていく。そのために全職員で児童理解を図り、個性に合った支援と温かい心を育てる手立てを考えていく。	特別支援 (研・学)	本校の児童は、自分の力や他者の良さに気づきにくい。特別支援を必要とする児童が多く、人との関わり方や譲り合い、認めあうことが難しい児童がいる。どんな人とも関われ、人としてのマナーを身に付けて集団生活がより良くなればと感じている。	【成果目標】 児童が短所や欠点を否定せず、自分らしさとして受け止めているか。	児童の肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	ScTN 27 (7月、12月)			
⑦組織運営・業務改善	業務の効率化・平準化によるワークライフバランスの推進	多岐にわたる業務の優先順位を考え、見直しをもって早めに取りかかり、業務の効率化及び平準化を図る。	教頭 (総)	全職員が定時退校日や目標退勤時刻を意識して超過勤務時間削減に取り組んでいる。職員の業務の平準化に努めている。	【成果指標】 計画的・効率的な業務遂行に努めることで、毎月の時間外勤務の平均が60時間を超えなかったか。	超過勤務時間の平均が月に60時間を超えない教職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	勤務時間調査 (7・12月)			
⑧研修	児童が主体的に学ぶための授業づくり	児童が主体的に学び、自分の考えを表現できるよう、様々な指導方法を学べるように、研修内容の充実を図る。	校内研修 (研・学)	昨年度もミニ研修会を行い、教員のニーズに合った研修を行っている。今年も行い、教員の研修意欲につながるよう内容を精選して取り組む。	【成果指数】 校内研修が授業づくりや自己研鑽に役立ったか。	教員の肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教員アンケート (7・12月)			
⑨保護者、地域との連携	開かれた学校	便りや、HPを活用し学校の様子を保護者に伝える。保護者アンケートや学校運営協議会により保護者や地域の声を学校運営に生かす。	教頭 (総)	定期的なホームページ更新や、学校だよりの発行が定着した。コドモンを活用した周知に取り組んでいる。	【満足度指標】 保護者が、学校の様子がよくわかると感じているか。	保護者の肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	保護者アンケート (7・12月)			
⑩教育環境整備	校舎内外の安全と教育効果を高める教育環境の充実	日常的に安全点検・備品管理に努め、施設・設備・備品等の適切な整備を行う。	主事・教頭	定期的に安全点検をし、修繕したり、備品補充したりしてきた。しかし、日常的な修繕が必要な場所や修繕しきれしていない箇所がある。	【成果指標】 管理場所の担当者が安全確保と環境整備に努め、常に学習・生活環境が整備されているか。	安全確保・環境整備が整っていると感じた教職員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教職員アンケート (7・12月)			

学校関係者評価	
---------	--